

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 三重県津市広明町13番地
管理機関名 三重県教育委員会
代表者名 教育長 木平 芳定

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 三重県立宇治山田商業高等学校
学校長名 廣島 朗
類型 グローカル型

3 研究開発名

「観光都市 with SDGs」 ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

4 研究開発概要

(1) SDGs推進プログラムの開発

① SDGs基礎プログラム（教科横断的な視点）

各教科・科目（国語、地歴、公民、家庭、商業など）でSDGsに関連する知識を学ぶとともに、SDGsについて造詣が深く生徒への講演や指導、教員研修等を行うことができる者（以下「環境教育アドバイザー」という。）や企業でSDGsを担当している専門家、コンソーシアムの皇學館大学の教授等から、貧困の根絶（経済や社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正について学ぶ機会を設ける。

② SDGs探究プログラム

科目「課題研究」において、1・2学年で学習したSDGsの知識を活用し、地域の特産品を使用した商品開発等をとおして、思考力・判断力・表現力を高める探究的な学びを実施する。

③ SDGs語学力向上プログラム

語学力の向上や異文化理解を深めるため、留学生との交流会や校内外の英語スピーチコンテスト等への積極的な参加を推進する。また、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を令和2年度から開設し、SDGsを主テーマに大学生や留学生と福祉、医療、環境等の地球的規模の課題に関するディスカッションやディベートをとおして、英語コミュニケーション力の向上を図る。

(2) 観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」において、観光資源（自然・歴史・食文化等）で豊かな伊勢志摩地域を活性化するため、課題研究「観光とビジネス」において、事業所への取材や自治体の「まち・ひと・しごと総合戦

略」についての調べ学習を行うとともに、旅行コンテンツやプランを作成し、JTB観光開発プロデューサーへのプレゼンテーションをとおして「高校生エコツーリズム」の取組を行う。また、海女をテーマにした動画を作成し、観光甲子園に応募、ESS部（みえグローバル学生大使）が伊勢志摩情報発信のSNS（Instagram）を定期的に更新する「“山商”伊勢志摩観光大使」の取組を行う。

② 国際交流プログラム

国内外での国際交流活動を推進し、主体性・積極性等を育成するとともに、観光先進国から、伊勢志摩地域を観光都市として築き上げる手法を学ぶ機会を創出する。

(3) 効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

- ・ 英語によるディベートやディスカッション等のパフォーマンス、課題研究及び校外における活動に係るポートフォリオを評価するための評価規準を策定する。

② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- ・ IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して生徒の資質・能力の伸びを把握し、各種プログラムの効果を検証する。

③ 外部評価

地域・コンソーシアム等への提言を含めた発表会において、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケート等により外部有識者の評価を受ける。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・ 学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・ 教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

運営指導委員の構成員

氏名	所属・職	備考
高見 啓一	日本経済大学 准教授	学識経験者
矢部 一成	IGS株式会社執行役員教育事業部事業部長	グローバルに活躍する教育分野の企業
北川 雅敏	三重県雇用経済部国際戦略課長	関係行政機関職員
三田 泰久	株式会社アーリー・バード 代表取締役	地域のグローバル企業
井上 珠美	三重県教育委員会事務局高校教育課長	関係行政機関職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制



コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者
宇治山田商業高等学校	校長 廣島 朗
伊勢市役所	情報戦略局 局長 須崎 充博
皇學館大学	文学部コミュニケーション学科 教授 豊住 誠
伊勢農業協同組合	経営企画部 部長 河井 英利
ULジャパン	人事総務部 部長代理 福村 伝史
海女小屋 はちまんかまど	代表取締役社長 野村 一弘
三重県教育委員会事務局	高校教育課 課長 井上 珠美

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	三橋 正枝	東北大学大学院環境科学研究科 特任助教	都度依頼
地域協働学習支援員	堀江 しおん	伊勢志摩ビデオサービス(株)役員	都度依頼

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の開催			1回									1回
コンソーシアム会議				1回				1回			1回	
県事業「学びのSTEAM化推進事業」	通年											

(2) 実績の説明

- ① 管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成，カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について
 - ・ 運営指導委員会の開催やコンソーシアムの会合などへの出席をとおして，定期的に事業の内容や進捗状況を把握し，指導・助言を行っている。令和3年度においても，新型コロナウイルス感染症の影響により，計画の変更を余儀なくされたため，県教育委員会を中心に運営指導委員やコンソーシアムの意見も参考にしながら，海外研修を国内や県内を行先とした研修やオンラインに代替して実施できるよう支援した。
 - また，コンソーシアムの構成，カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員についても，本事業の目的を達成するために必要な人材を確保できるよう支援した。
- ② 管理機関による主体的な取組について
 - ・ 県事業「学びのSTEAM化推進事業」の研究校に指定
 - ・ 商品開発への協力（コンソーシアム）
- ③ 事業終了後の自走を見据えた取組について
 - ・ 県教育委員会として，継続して地域と協働した取組や持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーの育成に向けた取組ができるよう指導・助言しながら支援していく。

10 研究開発の実績

本研究開発において，「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため，「地球市民力（課題解決力，論理的思考力，地域への貢献力，語学力）」と「未来創造力（企画力，調整力，実践力，突破力，創造力）」を身に付ける「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」をコンソーシアムや地元企業等と連携して実施している。

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
SDG s 講演会等				1回					1回	1回		
各科目の内容に沿ったテーマでSDG sに関する授業を実施	全科目で1回以上実施											
科目「課題研究」において、海女をテーマとした伊勢志摩PR動画を作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」で実施した取組を伊勢市長へプレゼン提案										1回		
科目「課題研究」において、地元企業と連携した商品開発	通年											
科目「課題研究」において、観光をテーマに探究活動	通年											
科目「課題研究」において、SDG sを踏まえたビジネスプラン作成	通年											
商業の科目において、コンソーシアム等の地元企業人と交流		2回	2回	4回	3回		10回	6回	1回	3回		
英語セミナー開催				1回			1回					
科目「グローバル・コミュニケーションA・B」においてSDG sの観点に基づいた授業を実施	通年											
校内英語スピーチコンテスト開催										2回		
みえグローバル学生大使活動	通年											
SDG sや観光に関する研修				1回	1回		1回	2回	5回	2回		
オンラインを活用した交流会				1回	1回		1回		2回	2回	1回	
全生徒・コンソーシアム等を対象とした成果発表会								1回		1回		
効果測定の開発・検証(AiGROW)				1回	1回		2回	1回	2回	1回		

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) SDG s推進プログラム開発

- ・ SDG s基礎プログラムとして、すべての教科・科目でSDG sに関連する授業を1回以上実施した。
- ・ SDG s探究プログラムとして、科目「課題研究」において、SDG sに取り組む企業についてのオンライン調査や、地域の特産品を使用した商品開発を実施した。また、SDG sに取り組む企業・自治体での実地研修や、SDG s先進国であるスウェーデンの事例調査をオンラインによって実施した。
- ・ SDG s語学力向上プログラムとして、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、SDG sの観点に基づいた授業を実施した。また、コミュニケーション能力を高めるため、終日英語のみで会話する学年別英語セミナー（国際科）や、校内スピーチコンテストを実施した。

(イ) 観光都市を描くプログラム開発

- ・ 伊勢志摩PRプログラムとして、科目「ビジネス情報管理」において海女をテーマに作成した伊勢志摩PR動画をNEXT TOURISM主催の「観光甲子園」に応募した。また、科目「課題研究」におい

て、SDGsの理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組を学ぶ探究活動を実施した。さらに、みえグローバル学生大使（三重県雇用経済部国際戦略課事業）の委嘱を受けたESS部の生徒を中心に、SNSによる三重の魅力紹介や、第2回太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議に関連したオンライン交流イベントに参加した。

- ・ 国際交流プログラムとして、7月と8月にオーストラリア姉妹校の生徒との交流をオンラインで実施した。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

- ・ SDGs基礎プログラム

全教科・科目で、SDGsを題材とした授業を実践した。例えば、現代社会の諸課題である「地球環境問題」「資源・エネルギー問題」「国際経済の動向と貧困の解消」等についての考察を深めるため、グループ討議や発表を行った。

- ・ SDGs探究プログラム

商業科目「課題研究」において、地域の特産品を活用した商品開発（あおさのギョーザ、伊勢たくあんのサンドイッチ）や持続可能な社会の実現に向けたビジネスアイデアの考案をした。

- ・ SDGs語学力向上プログラム

学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、SDGs基礎プログラムで学んだことを校内スピーチコンテストで発表した。

- ・ 伊勢志摩PRプログラム

商業科目「課題研究」において、海女をテーマにした伊勢志摩PR動画を作成し、「観光甲子園」に応募した。

ESS部の生徒が、みえグローバル学生大使（三重県雇用経済部国際戦略課事業）の委嘱を受けて、SNSを利用した三重県の紹介や、第2回太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議に関連したオンライン交流イベントに参加した。

商業科目「課題研究」において、SDGsの理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組を学ぶ探究活動を実施した。

- ・ 国際交流プログラム

オーストラリア姉妹校の生徒と、オーストラリアから見た日本の印象や生活・文化の違いをテーマに、オンライン交流会を7月と8月に実施した。

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

SDGs講演会を開催し、生徒・教員ともにSDGsに関連する知識を学ぶ機会を設けた。また、各教科で実施したSDGsを題材とした授業内容を全教員で定期的に共有し、生徒が身につけた知識を把握したうえで、教員は授業内容を計画して実施した。例えば、「海洋ゴミ削減」について、理科で合成樹脂に関する実験を行うとともにゴミ処理問題について考えた。国語科では、評論「環境と心の問題」を読み、環境問題や近代の人間観について考えた。商業科では、海洋ゴミの現状や地域の活動に関するWebサイトを制作し、県内の清掃活動についての詳細や参加の呼びかけなどを行った。

④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、学校に地域課題研究委員会を設置して、生徒が「地球市民力」と「未来創造力」を身に付けられるプログラムの開発・実践のための企画運営を行うとともに、カリキュラム開発専門家や地域協働学習実施支援員（外部人材）を活用し、プログラムの充実を図った。また、伊勢志摩地域を支える人材育成を考える「グローバル人材育成コンソーシアムみえ」を構築し、産学官のスムーズな連携による探究的な学びを実現した。

さらに、本事業の目的や取組の方向性を踏まえた学習活動等が実践できているかを検証するため、運営指導委員会を設置し、効果等の検証を行うことで、事業のPDCAサイクルを構築した。

⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

地域課題研究委員会において、推進担当者を中心に、各プログラム内容について協議を進めるとともに、

地域協働担当者や海外研修担当者を校内に設置し、地域と連携した取組や海外研修プログラムを作成した。

- ⑥ カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
- ・ カリキュラム開発専門家は、本事業の学習活動および各プログラムに対して、持続可能な社会の実現に向けた「SDGsの視点」を踏まえた指導・助言を行った。また、そのために地域課題研究委員会に参加した。
 - ・ 地域協働学習実施支援員は、商業科目「課題研究」の授業に参加し、伊勢志摩PR動画の作成について指導・助言を行った。
- ⑦ 校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- ・ 校内の地域課題研究委員会にて、毎週定期的に各プログラム作成の進捗報告や実践報告を行い、具体的な取組の改善策などについて検討した。
 - ・ 2月に生徒アンケートを実施して、その成果を検証した。
- ⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- ・ コンソーシアム会議にて、今後の取組に関する現状と課題について協議し、意見交換を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた海外研修（スウェーデン：SDGsの先進的な取組を学ぶ、マレーシア：観光資源を活用したエコツアーやグリーンツーリズムを学ぶ）が中止となったため、当初の目的を達成できる国内研修について協議し、意見交換を行った。さらに、次年度以降の地域社会と連携した教育実践の継続実施に向けても意見交換を行った。
 - ・ グローバルワークショップとして、代表生徒がこれまでの取組と今後の計画をコンソーシアム委員に対して中間報告を行い、報告内容や学びの過程から生じた生徒の疑問について意見交換を行った。
- ⑨ 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
- ・ 運営指導委員会において、資質・能力測定ツール「AiGROW」による各種プログラムの効果を検証した結果、3年間にわたる本事業の教育効果が大きいことを共有した。
 - ・ 本事業終了後も、開発したカリキュラムが継続して実施できるよう、持続可能な体制の確立に向けて協議を行った。
- ⑩ 以下の（ア）～（カ）の趣旨に応じた取組について
- （ア）地域の特性を踏まえつつ、グローバルな社会課題・地域の社会問題の解決に向けた学びや生徒のキャリアデザインを促すための取組
- ・ SDGs講演会を開催し、地元企業におけるSDGsの推進に向けた取組について学ぶとともに、ディスカッションを行いながら、未来の社会を支える高校生がSDGsにどのように向き合うべきなのかを考える機会とした。
 - ・ SDGsの観点から復興とグリーンリカバリーについて学習するため、宮城県東松島市周辺を視察した。また、伊勢市防災センターを訪問し、地域における防災について考えた。
 - ・ 過疎化地域における地域創生に向けた取組の学習と地域資源を生かしたグリーンツーリズムの研究のため、青森県三戸郡田子町を視察した。また、地元において自然環境を活かしたエコツーリズムの企画運営を行う企業の視察プログラムに参加し、持続可能で地域の活性化につながるツアーの考え方を学んだ。
 - ・ SDGsの理念に基づいた自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指す官民の取組を学習するため、鹿児島県沖永良部島を視察した。
 - ・ 農業をとおしたSDGsの取組を学習するため、第一次産業（農業）を中心にSDGsを進めている兵庫県丹波市の取組を視察した。
- （イ）外国語教育において、地域との関連から英語のコミュニケーション能力を高める取組
- ・ 太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議に関連したオンライン交流イベントに参加し、英語で伊勢志摩の魅力を紹介した。
- （ウ）外国語教育におけるディスカッション等の主体的な学びを促す取組
- ・ 学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、語学力の向上と異文化理解を深めるため、英語でディスカッションを行った。また、英語のスピーチ原稿等を作成し、校内スピー

チコンテストで発表した。

(エ) 海外の学校との定常的な連携による海外研修等

- ・ 9月のオーストラリア姉妹校生徒受け入れや3月のオーストラリア姉妹校への海外研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止としたが、7月と8月にオンライン交流を実施した。
- ・ スウェーデン研修プログラムの開発
SDGsの視点を踏まえた地域リーダーを育成するため、SDGsの理念に基づいた経営をしている企業への訪問や現地の高校生との交流を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。代替として、スウェーデン研修で面会予定だった方からSDGs先進国の事例についてオンラインで調査を行った。
- ・ マレーシア研修プログラムの開発
伊勢志摩の基幹産業である観光業等で活躍する人材を育成するため、実際のエコツアー等を体験する研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。代替として、鹿児島県沖永良部島を訪問し、自治体の方との意見交換やフィールドワークを行った。

(オ) 海外からの留学生等と一緒に学ぶ探究的な活動

- ・ オーストラリア姉妹校の生徒と、お互いの国に関するSDGsの取組について、オンラインで意見交流を行った。
- ・ 「アジア高校生架け橋プロジェクト」において、フィリピンからの留学生を受け入れ、1年国際科と一緒に学んだ。

(カ) 地域への理解を深めるための取組

- ・ 商業科目「ビジネス情報管理」において、食品ロス削減の啓発活動として、伊勢市職員の方とともに地域の食品スーパーで、買い物客に対して消費期限や賞味期限が近い食品から購入してもらうための呼び掛けを実施した。
- ・ 商業科目「課題研究」において、地元商品を取り扱う「山商ネットショップ」を開設し、商品選びから商品発送までの実取引について学んだ。また、開設にあたりPOPを作成し、地元中学校へのPR活動を実施した。

⑩ 成果の普及方法・実績について

- ・ 本事業に係るコンソーシアム委員にも案内し、1月31日に全学年が参加した成果発表会を開催した。また発表会後には、「SDGsを達成するために」をテーマに、本事業カリキュラム開発専門家や運営指導委員会委員長、コンソーシアム委員代表、SDGs推進支援協力者と本校生徒代表によるパネルディスカッションを実施し、意見を共有した。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業は、「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の実践により、学習内容の充実が図られ、「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」を生徒に身に付けることを目標としている。

(1) 「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」の育成

- ① 地域や企業等と連携した取組やコロナ禍における探究活動等をとおして、「地球市民力」と「未来創造力」が身につけているかを生徒アンケート等により把握する。

指標（アウトカム）	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
「地球市民力」と「未来創造力」が身に付いた生徒の割合	61.0%	66.7%	67.0%	70%

- ② IGS株式会社のAiGROWを活用した測定

本事業における3年間のAiGROW受験結果（平均値）から、27コンピテンシー中19コンピテンシーの成長に有意性が認められた。また、本事業のキー・コンピテンシーの成長については、実践力と突破力以外に有意性が認められた。実践力については3年間通じての課題となった一方、イノベーションにつながる課題解決力や企画力には特に大きな成長が認められた。

分野	コンピテンシー	2019年7月	2022年1月	差	有意確率(両側)
認知系	課題設定	0.556	0.591	0.03**	0.06
	論理的思考	0.553	0.600	0.05**	0.12
	疑う力	0.570	0.602	0.03**	0.00
	創造性	0.503	0.600	0.10**	0.00
自己系	個人的実行力	0.628	0.583	-0.05**	0.03
	自己効力	0.554	0.606	0.05**	0.03
	耐性	0.584	0.593	0.01	0.62
	決断力	0.586	0.573	-0.01	0.00
他者系	表現力	0.544	0.548	0.00	0.01
	共感・傾聴力	0.604	0.580	-0.02	0.03
	柔軟性	0.564	0.593	0.03*	0.04
	影響力の行使	0.476	0.583	0.11**	0.00
コミュニティ系	地球市民	0.513	0.577	0.06**	0.40
その他	主体性	0.607	0.578	-0.03*	0.00
	協働性	0.515	0.594	0.08**	0.00
	リーダーシップ	0.561	0.586	0.02*	0.00
	イノベーション	0.560	0.592	0.03*	0.03
	批判的思考力	0.557	0.575	0.02	0.00
	創造的思考力	0.554	0.590	0.04**	0.00
	協働的思考力	0.594	0.587	-0.01	0.13
地球市民力	課題解決力	0.556	0.591	0.03**	0.06
	論理的思考力	0.553	0.600	0.05**	0.12
	地域への貢献力	0.513	0.577	0.06**	0.40
	企画力	0.560	0.592	0.03**	0.03
	調整力	0.515	0.594	0.08**	0.00
未来創造力	実践力	0.628	0.583	-0.05**	0.03
	突破力	0.586	0.573	-0.01	0.00
	創造力	0.503	0.600	0.10**	0.00

※ t検定とは、事前と事後の変化がプログラムの効果によるものと仮説を立て、実行したプログラムの有意性を検証した結果

(2) 地元に着目して活躍する地域人材の育成

本事業は、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的としており、地元で就職し、地元に着目して活躍する人材を育成する必要があることから、企業アンケートにより職場定着の状況を継続して把握するとともに、各プログラムに地域の魅力や働くことの意義等について理解する学習内容を反映する。

指標 (アウトカム)	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
地元就職者のうち、高校卒業後に入社した地元企業での職場定着率	76.0%	97.4%	96.6%	80%

※ 各年度の3年前入学生徒の3年間の状況

(3) 語学力の向上

SDGs 語学力向上プログラムにおいて、英語のみを使用する環境を創出するとともに国際交流活動の充実を図ることで、英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解の促進を図る。2020年度から、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」を新設して、英語コミュニケーション力等の一層の向上をめざしている。

指標 (アウトカム)	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
卒業時における生徒(200人)の4技能の総合的な英語力としてのCEFRのA2レベル以上の生徒の人数	64人	74人	55人	120人

(4) 地域人材を育成する高校としての活動について

グローバルな課題解決のために必要なIT関連の全国大会で2年連続優勝するとともに、コロナ禍で様々な全国大会が開催中止となる中、観光甲子園やエシカル甲子園にエントリーするなど多くの生徒が各種大会に挑戦した。また、本県の「みえグローバル学生大使」として任命されている本校生徒が、地域における国際交流活動やオンラインによる交流を行った。

指標 (アウトカム)	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
グローバルな社会又は地域のビジネス課題に関する公共性の高い全国大会等における入賞者数	5.7%	2.2%	3.3%	10%
みえグローバル学生大使として、地域において国際交流活動に参加	29人	13人	21人	120人

(5) 地域人材を育成する地域としての活動について

本事業においては、コンソーシアムを構築し、将来の伊勢志摩地域を担う「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成する取組を進めた。「課題研究」や「ビジネス情報管理」「経済活動と法」等の科目において、地元企業や自治体、大学等から企業人等の派遣を受け、学習内容の充実を図ることができた。また、3学年「課題研究」の全ての講座で、自治体や地域の企業と連携した取組を行った。

指標 (アウトカム)	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
「SDGs推進プログラム」及び「観光都市を描くプログラム」への企業・地方自治体・企業等の協力者数	40人	51人	60人	50人
地元企業でインターンシップ等を体験した生徒の割合	42.0%	61.9%	100%	100%

※ インターンシップ等体験生徒の割合は、卒業時における生徒(200人)の割合で計算

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

SDGs基礎プログラムにおいて、すべての教科・科目でSDGsに関する内容を扱った。身につけた知識を活用し、SDGs探究プログラムとして、商業科目「課題研究」において商品開発やビジネスプランの作成等を通して思考力・判断力・表現力を高める探究的な学びを実施した。また、SDGs語学力向上プログラムとして、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を開設し、英語での発信力の向上を図った。次年度以降もSDGsの視点による教育活動を継続実施する。

資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定において、イノベーションにつながる課題解決力や企画力には特に大きな成長が認められたが、実践力については3年間通じての課題となった。改善点として、令和4年度入学生より「総合的な探究の時間」を2年次から導入し、継続的な探究活動の展開をすることによって資質・能力の更なる向上を期待する。

本事業において、コンソーシアム委員ほか地域の自治体や企業の協力者数は今年度51人であった。今後も生徒が地域での実習等を行うとともに社会人等が学校において講演を実施するなど、学校と社会の双方で学ぶ仕組みは必要である。次年度以降も官民や高等教育機関関係者による継続支援を受けながら教育活動を行うことで、持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成していきたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	059-224-3002
氏名	上村 峰生	FAX	059-224-3023
職名	指導主事	e-mail	uemurm04@pref.mie.lg.jp